

かごつま家族ねっと



第12号

発行人 鹿児島県知的障害者施設家族会連合会

事務局 〒890-0032

鹿児島市西陵7丁目30番3号

川畑岩夫宅

TEL・FAX 099-281-9548

平成30年度新体制スタート ～ 鹿児島県知的障害者施設家族会連合会（略称；鹿施連）～

平成30年6月8日（金）、ハートピアかごしまにおいて、平成30年度評議員会（総会）が開催されました。

まず始めに、鹿施連 兼廣倫生会長は、開会の挨拶で

- ① 鹿児島県障害者計画及び同第5期障害者福祉
- ② 新しい生活施設のあり方提言Ⅱ資金募金及び骨子の発表
- ③ 全施連の会費値上げ
- ④ 平成29年度を振り返っての家族会の活動の意義の再確認
- ⑤ 鹿施連の活動への協力依頼

等々について話をされました。

続いて、来賓として「鹿児島県知的障害者福祉協会」会長 水

流純大氏と「鹿児島県手をつなぐ育成会」理事長 別府則夫氏の挨拶があり、知的障害者の諸団体が車の両輪のごとく手を携えて運動することの大切さ、知的障害者に係る法制度がどんどん変わる中で、利用者に対してより良い支援へとつなげていくにはどうしたらよいか等について話され、障害者運動に携わる一員としての思い・願いを共有できました。

議事に入り、平成29年度事業報告・収支決算報告・監査報告が報告審議され、原案通り全員一致で承認されました。引き続き、平成30年度の事業計画（案）・予算（案）、運動の基本方針や具体的な取り組みが提案され、質疑応答・討議後、全員一致で承認されました。

本年度は、鹿施連の役員改選年ではなかったが、南薩摩地区支部においては、支部長に「ぶし美の里保護者会長 宮下设郎さん、副支部長に白藤園愛護会長 濱田正幸さん」が就任した旨の報告があり、会長により提示され、承認されました。

最後に、出席者全員で今後の活動の充実・発展を確認し合い、評議員会（総会）の幕を閉じました。



30年度 鹿施連の具体的な取り組み

（1）組織の点検と強化

- ① 執行部体制の確立
- ② 支部執行部体制の確立
- ③ 各家族会単位の情報の交換、連携の強化

（2）研修活動の推進

- ① 研修会の開催
- ② 家族会並びに施設職員研修会の開催（鹿児島県知的障害者福祉協議会との共催）
- ③ 支部研修会の開催

（3）啓発活動の推進

- ① 広報誌「かごつま家族ねっと」の年2回発行
- ② 鹿施連の存在や活動の紹介

（4）全施連、九州協議会との連携の深化

- ① 全施連理事会・総会への参加
- ② 九州協議会への参加
- ③ 全国大会（inひょうご）への参加

（5）行政機関への働きかけ等

(6) 関連団体との連携の推進

- ① 鹿児島県知的障害者福祉協会との連携 ② 鹿児島県手をつなぐ育成会との連携

平成30年度 事業計画の予定 (年5回の理事会・年2回発行の会報については割愛しました。)

年 月 日	事 業 内 容	備 考
30. 6. 11 (月) ～ 12 (火)	全国知的障害者施設家族会連合会 社員総会 (開催地：大阪市・新大阪ガーデンパレス)	参加者2名
30. 7. 10 (火) ～ 11 (水)	全施連九州協議会 (開催地：佐賀県佐賀市)	参加者3名
30. 10. 23 (火) ～ 24 (水)	第14回全国知的障害者施設家族会連合会 全国大会 in ひょうご (開催地：シーサイドホテル舞子ビラ神戸)	開催テーマ 「今から始める第一歩」 ～ 福祉の後退を許さない ～
30. 11. 14 (水)	平成30年度研修会 (開催地：ハートピアかごしま)	
31. 1. 19 (土) ～ 20 (日)	家族並びに施設職員研修会 (共催) (霧島市 京セラホテル)	発表家族会 (鹿児島市地区, 南薩摩地区支部)

全施連 社員総会開催

～ 30年度の方針定まる ～

平成30年6月11日(月)～12日(火)の両日、大阪市において、一般社団法人全国知的障害者施設家族会連合会(略称、全施連)社員総会が開催されました。

第1日目は冒頭に、全施連理事長 由岐 透氏の挨拶があり、知的障害者を取り巻く状況について、次のとおり

- ① 2016年、「我が事・丸ごと」地域推進本部の設置
- ② 2017年、国は、介護保険法の改正、障害者支援法など30の法案の改正などと着々と進めている
- ③ 2018年4月、障害者福祉サービス等報酬改正されている。共同生活の概念が入り、既に実施されている。全施連としてはチェックしていくことが大事である
等と報告がありました。

続いて、「新しい生活施設のあり方」提言Ⅱのプロジェクト会議(PT会議)より、提言Ⅱの骨子について、小賀 久教授(全施連顧問、北九州市立大学)は、次のとおりその概要について説明がありました。

タイトル(仮称)羽ばたけ！ 地域共生ホーム ～ 障害のある人の新しい暮らしの場を求めて ～

目次案

- はじめに 地域共生ホームとはなにか
執筆担当者：小賀 久(全施連顧問、北九州市立大学)
- 第1章 新しい施設「地域共生ホーム」の創設を求めて
執筆担当者：宗澤忠雄(全施連顧問、埼玉大学)
- 第2章 「地域共生ホーム」から展開する地域生活
執筆担当者：宗澤忠雄(全施連顧問、埼玉大学)
- 第3章 職員の専門性の向上と待遇改善を求めて
執筆担当者：南 守(全施連副理事長)
- 第4章 「地域共生ホーム」の長の要件
執筆担当者：桜田星宏(全施連顧問、秋田県知的障害者福祉協会会長)
- 第5章 施設経営と運営のあり方について

執筆担当者：南 守（全施連副理事長）

- 第6章 家族の役割と法的位置を明らかに

執筆担当者：由岐 透（全施連理事長）

- 第7章 国・自治体の責任と役割を明らかに

執筆担当者：小賀 久（全施連顧問，北九州市立大学）

- 第8章 当事者の権利擁護のために

執筆担当者：田中 幹夫（全施連顧問，弁護士）

本文には適所に図や表，挿し絵を入れ，わかりやすさを求めた本にする等と話されました。また，要約版も同時発行を目指しますとも話されました。

その後，議案の審議に入り、平成30年度の事業計画として

- ① 24時間一貫した快適な支援施設の新設請願
- ② 新しい形の支援施設のあり方に関する提言パートⅡの作成
- ③ 行政（国・地方自治体），議会（国・地方自治体）への陳情と意見交換
- ④ 介護保険優先の原則の撤廃
- ⑤ 支援区分の廃止
- ⑥ 組織の拡大と強化
- ⑦ 一人ひとりの活動力強化の研修会の開催
- ⑧ 全施連内部学習会の開催
- ⑨ 友誼団体との連携強化
- ⑩ 財政基盤の強化

提案され，全会一致で承認されました。

平成30年度全国大会の概要について，神戸市知的障害者施設家族会連合会の木村三規子会長より説明がありました。

社団法人 全国知的障害者施設家族会連合会

第14回 全国大会 in ひょうご

期 日 平成30年10月23日（火）～ 24日（水）

開催テーマ 「今から始める第一歩 ～ 福祉の後退を許さない ～」

開催会場 シーサイドホテル舞子ビラ神戸

会 費 6,000円 （交流会費7,000円・宿泊費別）



全施連九州協議会開催 ～九州から大きなうねりを～

平成30年7月10日（火）～ 11日（水）に佐賀市で開催されました。「知的障害者・児の安心・安全な暮らしを目指して活動する」という目的を実現すべく，情報や意見の交換，今後の具体的な方針について活発な論議がなされました。なお鹿施連からは兼廣会長など3名が参加しました。

まず始めに，各県から活動報告がなされました。九州協議会の在り方についても意見が出され，渡邊民雄熊本県施連会長（全施連副理事長）から，「次回の鹿児島県開催において，会則等を定めたいので各県施連で討議しておいて欲しい。」などと真摯な話し合いが行われました。

意見交換会においては

- ① 利用者の施設における食事について

ア 食事の業者への委託状況 イ 食事の質（摂取カロリー），量 ウ 管理栄養士の有無

② 施設内外における防犯カメラ設置

ア 各施設に防犯カメラの設置個数、 イ 設置に当たってのプライバシー問題

③ 家族会への加入、開催状況

ア 未加入施設家族会への加入促進、 イ 退会家族会の引き止め策、 ウ 家族会の開催状況

④ 国、県、市町村への請願(4項目)状況

ア 各県施連の請願状況、 イ 県、市町村議会及び各委員会の傍聴並びに各議員への働きかけ等々について、参加者から活発な意見がありました。

2日目は、佐賀県武雄市の社会福祉法人天童会「くろかみ学園・すみよしの里」の統括施設長永尾忠博氏が、「自分らしく生きる」というテーマにより施設の実情等について報告をしてくださいました。(概略)

○ 入所施設に入ったから安心ではなく、そこで本当に利用者本人が幸せに生き甲斐を持って、楽しく生活ができているかを見定める必要がある。

○ 保護者の方も施設の支援会議に入り、必ず説明を受け、納得したうえで署名、押印して欲しい。

○ 施設の職員には、利用者には「どこか良いところがある。」ということで支援をしていくようにしている。また、職員がすぐ決めるのではなく、柔軟な考えで支援していくことが大事と教えている。

○ 利用者には、社会に出てもらいたいということで、1年に1回は、サッカーやプロ野球の観戦に行っている。利用者を見てもらうことで地域の皆さんに分かってもらうことも必要である。

○ 天童会では、利用者1人対し、1.7人の職員の割合で対応している。

職員募集は、やる気のある人をハローワーク、各種学校訪問、ホームページ等により募集しているが、最近の若者はスマホ利用者が多いことからスマホによる募集も考えている。



などと話されました。

九州から「大きなうねりを起こし、大きな一歩を踏み出す」ための有意義な協議会となりました。

参考までに、全施連が国、県、市町村の行政機関にお願いしている「請願4項目」を紹介します。

- 1 知的障害者が生涯を通じて24時間切れ目のない安心して、快適に暮らせる入所施設を新設し、グループホームを充実すること。
- 2 必要な支援の制限につながる現行の障害支援区分は廃止し、本人にとって必要な支援を受けられる仕組みとすること。
- 3 安定して継続的な支援が受けられる職員体制にすること。
- 4 国及び地方公共団体は、知的障害者への障害福祉サービスを提供する義務を負うこと。

鹿施連においては、毎年8月ころ、鹿児島県知的障害者福祉協会が開催する「鹿児島県議会議員との意見交換会」に参加し、県議会議員や鹿児島県障害福祉課員との意見交換会の中でお願いをしています。

全国知的障害者施設家族会連合会の活動の様子は、全施連ホームページ <http://zensiren.web.fc2.com/> で調べることができます。

(お詫び) 前号までにお知らせした全施連のホームページのアドレスが間違っておりました。上記のアドレスが正しいものです。ご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。

「全施連ニュース」や各県発行の「会報」、今までの「かごっま家族ねっと」なども紹介されています。